

『原発過酷事故等の責任』及び

『「なるほど」と実感して頂くための経営』に対する再質問書

2013年2月8日

九州電力株式会社

代表取締役社長 瓜生 道明 殿

玄海原発プルサーマル裁判の会 代表 石丸 初美
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会 共同代表 野中 宏樹

第1 はじめに

(1)昨年9月13日、当会より提出の「過酷事故時の責任についての質問書」に対し、貴殿より、担当部課を通じて、未だ明確な回答を頂いておりませんので、本日ここに回答を求めるとともにこの間の諸事情を鑑み、再質問分を追加するものであります。9月13日付け質問書に関しては、以前の提出文書確認の上、ご回答ください。

過日、貴社の国に対する「電気料金の値上げ申請」を受けて、経済産業省及び消費者連盟主催にて、本件に関する公聴会・意見陳述及び質疑応答が開催されてきました。しかし、その場の回答でも、震災からの復興再生に必要な予算を無駄なことに投資するようなこと、未だ安全を確認できない原発再稼働を前提に電力料金の値上げプランが組まれていることなど、3.11福島原発事故当初から抱いている私たちの数々の疑問を払拭することはできませんでした。

(2)そこで、再度、私たちより、前回の説明の場における疑問、あるいは、新たに生じた疑問点についてお尋ねさせていただきます。前回同様、本質問も、貴殿が、いずれも容易かつ迅速に明確な回答ができる質問ばかりです。代表者として、速やかに納得させる明確な回答ができないのであれば、原発の再稼働計画は、九州のエネルギー計画に震災被害地の再生復興にも不適当なものであるといわざるを得ず、私たちの主張の通り、白紙撤回が必要ですので、誠実なご対応をお願いします。

(3)なお、以下の質問の中には、国の、あるいは他の自治体、一般企業などの、いわゆる第三者の行為についての認識も含まれておりますが、問題の根源として必須事項でありますので、くれぐれも「それは第三者の問題であり、当社としては認識していない/答える立場ではない」という回答はご遠慮ください。

では、原発震災2年目の3.11という節目を前に、九州電力の代表取締役である瓜生社長が、「玄海・川内原発を直ちに動かさねば、料金は値上げし続けなければならない」などと発言するのではなく、廃炉していくことを前提に安全で未来に繋がる明るいエネルギー推進を内外に表明されることを強く要請しながら、質問します。

第2 <質問事項>

★その1(9月13日質問分)…………※別紙の通り

★その2(追加質問分)

(1)日本一危険な原子炉と言われる「玄海原発1号機」は、37年経年劣化に加え、圧力容器の不純物包含が原因の「脆性遷移温度98度」は異常ではないかと金属工学の専門家から疑われています。その危険疑惑を公に晴らすためには、自分達の信頼筋である「電力中央研究所」のみではなく大学研究室などによるダブルチェックが必要なことは明白です。瓜生社長は、1号機にさらに資金を注ぎ込み20年延長の考えまで示しました。ならば直ちに、1号機試験片を公にし、最新データを明らかにすることが責務です、できるか否や回答ください。

(2)原子力規制委員会の今後の対処策によると、玄海1号機に存在する「可燃性ケーブル」は、全てを「難燃性ケーブル」に交換することが必須となります。この1号機まで再稼働を前提に入れているようですが、ケーブルの交換を予定していますか？

(3)2012年1月より、玄海・川内原発停止中にも働く作業員は、月間2300余名と回答頂きました。

定期検査以外に、常時如何なる仕事が必要とされているのか、回答ください。

また、その内、多くの下請け業者が就業していると聞きますが、請負契約をしている以上下請け社員を九電の指揮命令下に置くことは出ない。過酷事故が推量される緊急時には、どのような指揮命令系統にて対処するのか、示して下さい。

(4)「料金値上げ申請に関する公聴会」にて、役員報酬、相談役・顧問報酬および一般社員給与水準の下方修正すること、九電及び子会社グループの資産である土地などの売却による経営改善策が要求されました。これらを実行する決意を聽かせて下さい。

(5)「料金値上げ申請に関する公聴会」にて、関西電力は、原油やLNGの日本全国輸入価格実績に比べ、3年間8.3%高い調達価格であったと判りました。九州電力は、どうなっていますか？

(6)「料金値上げ申請に関する公聴会」にて、石油と天然ガスの大幅な値下げ策が提案された。特にLNGは、大阪ガスと中部電力が液化技術を含めて40%コストダウンを前提に積極策に出で経営改善を図るとしています。九電は、どんな燃料費を下げる努力をしていく計画かを示して下さい。

(7)玄海原発の使用済燃料貯蔵ピット(プール)は、ぎゅうぎゅう詰めにする計画で設置変更許可申請書を提出しましたが、3.11事故によって貯蔵プールの危険性もあらためて問題を浮き彫りになり、安易に詰め込むことができなくなりました。2012年度末の時点で、玄海原発(1～4号機)の使用済燃料プールの状況は、余裕ある管理量から計算すると、2.6回しか運転できません。その後、再稼働はできないのです。どうするつもりですか？

(8)総括原価方式の問題点、九電は、本来原価とは云えない社員の福利厚生費や財形貯蓄の利子などが計上されていました。原価の水増しによって、利益を乗せて電気料金を正当化してきた訳ですから、その分を返せという消費者の声は当然であります。九電のラグビー部のプロ並みと言われた予算と3年間(2009～2011年)の実質使用状況を公表し、弁明して下さい。

(9)やらせ体質は、どう改善されたのか？第3者委員会報告に則って、その改善状況をお答えください。

以上

第3 終わりに

- 1 以上のとおり問題点は多岐に亘るため、再質問の説明時間を十分に確保していただきたいことから、ぜひとも事前に文書でご回答いただきますようお願いします(回答期限:本日より30日以内)。
- 2 そのうえで、御社にお伺いいたしますので、その際に、担当部課からご回答に関する説明を直接伺うとともに、ご回答に関する質疑の場を設けていただきたいと考えております。
その際、相当数の参加者が見込まれますので、そういう方々が十分に入れる部屋をご用意いただきますようにお願いします。具体的やり方については、別途協議させていただきたいと思います。
- 3 なお、書面でのご回答及び本件に関する問い合わせ等につきましては、下記宛にお願いいたします。